

小丸川総合水系環境整備事業

計画段階評価(案)

令和7年10月31日

国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所

小丸川総合水系環境整備事業 計画段階評価

- | | |
|--------------------------|----------|
| 1. 流域及び河川の概要..... | P.1～P.5 |
| (1)流域の概要 | |
| (2)河川の概要 | |
| (3)小丸川水系における環境整備の経緯・取組予定 | |
| 2. 課題の把握・原因の分析..... | P.6～P.7 |
| (1)高鍋町が目指すまちづくり | |
| (2)課題の把握・原因の分析 | |
| 3. 政策目標、具体的な達成目標の設定..... | P.8 |
| (1)政策目標 | |
| (2)具体的な達成目標 | |
| (3)期待される効果 | |
| 4. 複数案の提示、比較、評価..... | P.9～P.12 |
| (1)整備案の提示 | |
| (2)整備案の比較、評価 | |
| 5. 対応方針(原案)..... | P.13 |
| (1)宮崎県の意見 | |
| (2)対応方針(原案) | |

1. 流域及び河川の概要

(1)流域の概要

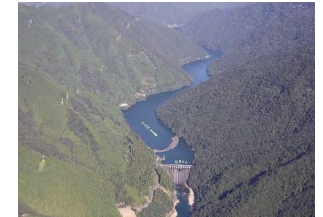
小丸川は、その源を宮崎県東臼杵郡椎葉村三方岳（標高1,479m）に発し、山間部を南東に流下し、渡川等を合わせながら木城町の平野部を流下した後、高鍋町に入り切原川、宮田川を合わせ日向灘に注ぐ、幹線流路延長75km、流域面積474km² の一級河川である。沿川には、北九州市と鹿児島市を結ぶ東九州地域の主要幹線である東九州自動車道や国道10号、JR日豊本線等の基幹交通施設が整備される等、交通の要衝となっている。



小丸川上流部

（源流～比木橋付近）

- ・急峻な山地を流下し、河床は巨石、巨礫で形成されている。
- ・左岸側の尾鈴山周辺一帯は、尾鈴県立自然公園に指定され、イチイガシ、タブノキ等の照葉樹林が分布し、美しい渓谷や滝が存在している。
- ・5つのダムが断続的に貯水池を形成し、カモ類等が休息場として湖面を利用している。



松尾ダム付近

小丸川中流部

（比木橋付近～切原川合流点）

- ・河床勾配が緩やかになり、河道内は連続する瀬・淵や砂礫河原が広がっている。
- ・竹鳩橋下流にはかつての流路の名残である河跡湖が見られる。河跡湖には、絶滅危惧種のオグラコウホネのほか、ガガブタ、ノタヌキモ等の水生植物が生育している。
- ・小丸川に向けた比木神社の鳥居に象徴される歴史的な景観は小丸川を特徴づける景観の一つとなっている。



竹鳩橋下流付近

小丸川下流部

（切原川合流点～河口）

- ・感潮区間であり、河口部の入り江には、ハマボウ、シオクグ、イセウキヤガラ等の塩生植物が多数群生している。
- ・河口付近はマガモ等のカモ類が集団越冬地として利用しているほか、広大に広がる河口砂州は、絶滅危惧種であるコアシサシの集団繁殖地となっている。
- ・水面も広く日向灘に注ぐ河口部に代表されるような開放感あふれる河川景観を呈している。

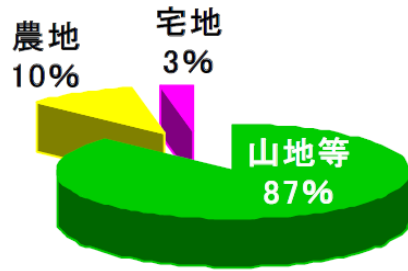


河口付近

1. 流域及び河川の概要

土地利用

小丸川流域の土地利用は山地等が全体の約87%近くを占めている。この他、水田や畑等の農地が約10%、宅地等市街地が約3%の割合となっている。

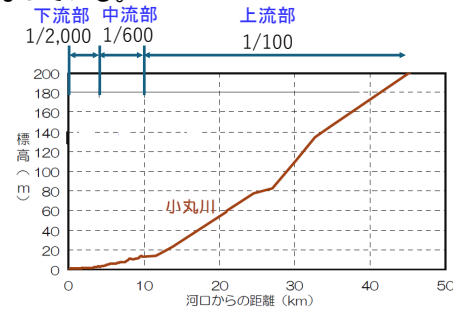


小丸川流域の土地利用面積

地形特性

地形は、^{さんぼうたけ}三方岳や^{しみずたけ}清水岳などの日向山地のほぼ中央部を源に^{おすずやま}尾鈴山と^{からんのやま}空野山に挟まれた急峻な溪谷が形成され、下流部には沖積平野が広がっている。

河床勾配は、上流部で約1/100 程度、中流部は約1/600 程度と急勾配であり、下流部は約1/2,000 程度と比較的緩勾配となっている。



自然環境

小丸川流域は、水と緑豊かな自然を有しており、流域全体に多様で良好な環境をもたらしている。

魚類は、上流部にはオイカワやウグイ、サクラマス等、中流部にはアユやカマキリ(アユカケ)等が生息し、下流部の河口付近にはアカメ等の重要な種が生息している。

鳥類は、上流部にはカワセミやヤマセミ、中流部にはイカルチドリが生息し、下流部の河口に広がる砂州はコアシサシの集団繁殖地になっている。

植物群落は、中流部の砂礫河原には礫河原固有種植物のカワラハハコが生育しているほか、かつての流路の名残である河跡湖にはオグラコウホネ、ガガブタ等の重要な水生植物が生育している。下流部の入江にはハマボウ等の塩生植物が生育している。

産業

上流部では水力発電が盛んであり、九州における水力発電量の約4割を供給している。また、山間地帯では木材、シイタケ等の林業を中心とした産業のほか、数々の神話や豊かな自然環境を基とした観光産業が盛んである。

中下流部の平野では養鶏や養豚などの畜産を中心とした農業や酒造業などが営まれている。



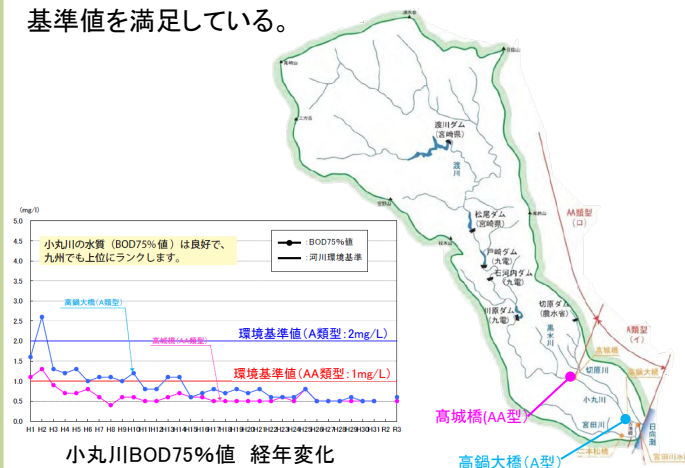
養鶏場



酒造工場

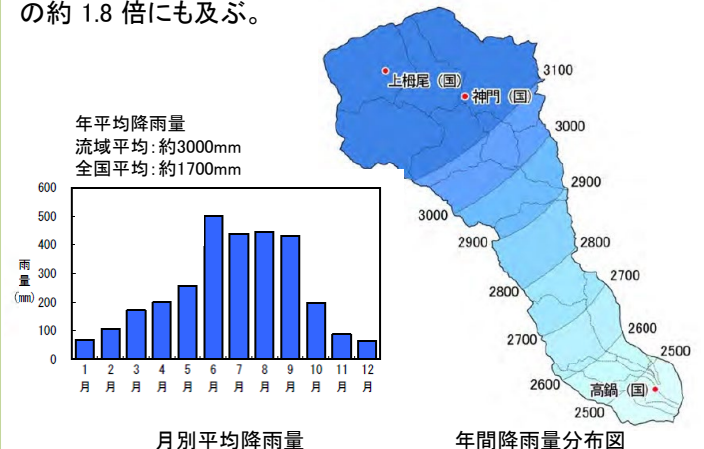
水質

小丸川の水質(BOD)は、^{たかじょうばし}高城橋から上流は水質環境基準A類型に、^{たかなべおおばし}高城橋から河口まではA類型に指定されており、いずれの地点(高城橋地点、高鍋大橋地点)も近年、環境基準値を満足している。



降雨特性

流域の気候は、上流部では山地型の気候区、下流部では南海型気候区に属し、流域の降雨分布は特に上流部が多雨地帯となっており、年平均降雨量は約3,000mm と、全国平均の約 1.8 倍にも及ぶ。



1. 流域及び河川の概要

(2)河川の概要

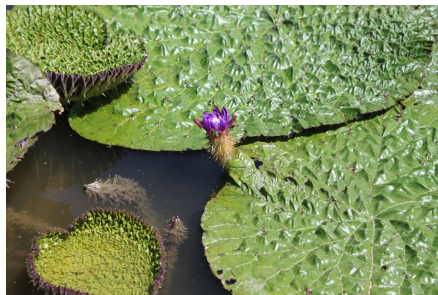
【歴史・文化】

- ・上流部においては鬼神野・^{きじの} 梅尾溶岩溪谷等の景勝地、下流部においては国指定史跡持田古墳群^{もちだこふぐん}等多くの史跡が存在している。また「オニバスの自生地」、「アカウミガメ及びその産卵地」が天然記念物として、「椎葉神楽^{しいばかぐら}」や「中之又神楽^{なかのまたかぐら}」が文化財として指定されている。
- ・中流部においては、木城町の比木神社と美郷町の神門神社との間を巡行する百済王伝説にまつわる「師走祭り^{しわすまつり}」等の伝統が引き継がれている。

【動植物の生育・生息・繁殖環境】

- ・上流部では、オイカワ、サクラマス(ヤマメ)の魚類が生息・繁殖する瀬・淵やカワセミ、ヤマセミ等の鳥類の採餌場となる溪流環境、アラカシ林、常緑落葉広葉樹混交林が連続する河岸が見られる。
- ・中流部では、アユ、カマキリ(アユカケ)が生息する瀬・淵や、ギンブナ、コイ等の魚類やテナガエビ等の底生動物が採餌場、避難場として利用するワンド・たまり、イカルチドリ等の鳥類が生息・繁殖する礫河原、オグラコウホネ等の重要な植物が多く生育する河跡湖(旧河川)が見られる。
- ・下流部では、コアジサシが集団繁殖する河口砂州や、シオマネキ、アシハラガニ等の底生動物やトビハゼ等の魚類が生息・繁殖する干潟、ハマボウ、シオクグ等の塩生植物が群生し、アカメ等の重要な魚類が生息する入江が見られる。

【歴史・文化】



オニバス(写真: 木城町HP)



アカウミガメの産卵地(写真: 高鍋町HP)



瀬と淵



溪流環境



高鍋神楽(写真: 木城町HP)



師走祭り



河跡湖

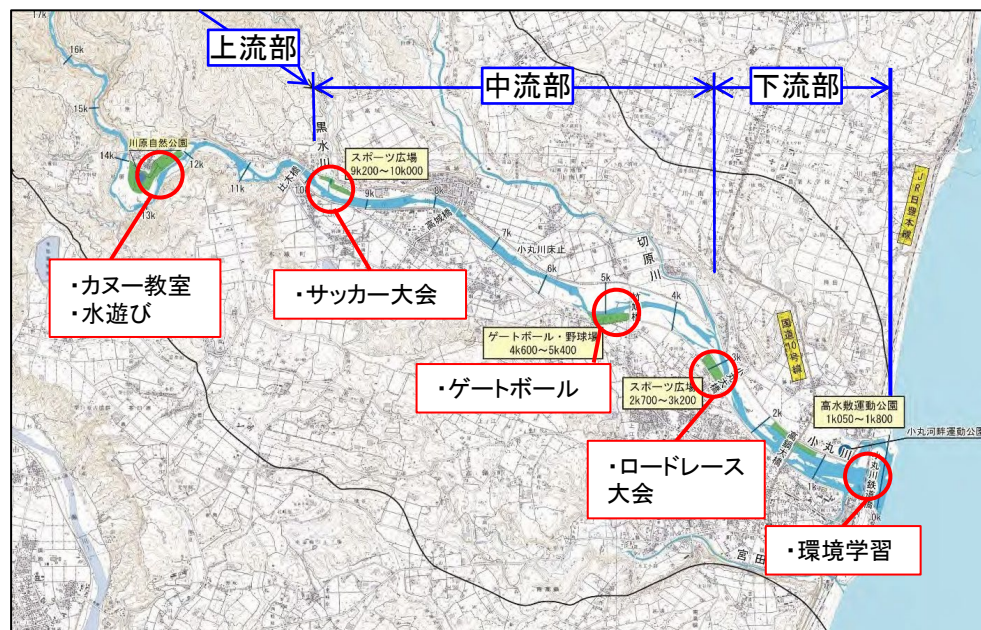


干潟、ヨシ原

1. 流域及び河川の概要

【人と河川の触れ合いの活動の場】

- ・近年（R6年度）の河川空間利用実態調査において、小丸川の利用者は年間約9万2千人となっている（推計値）。
- ・利用形態別では、散策等が全体の半分以上を占めており、近隣住民により日常的に利用されている。
- ・上流部は、川原自然公園^{かわばるしぜんこうえん}においてキャンプやカヌー等の利用がなされ、カヌー教室や自然体験等のイベントが行われている。
- ・中・下流部は、高水敷に複数のスポーツ広場が整備され、ゲートボールやサッカー、ロードレース等の大会が行われているほか、遠足やピクニックなどのレクリエーションに広く利用されている。また、河口部の入り江や河跡湖をはじめとした豊かな自然環境が存在することから、水遊びや釣りのほか、環境学習の場としても利用されている。



カヌー教室（小丸川上流部）



水遊び（小丸川上流部）



ゲートボール（小丸川中流部）



サッカー大会（小丸川中流部）

区分	項目	年間推計値(千人)			利用状況の割合		
		H26年度	R1年度	R6年度	H26年度	R1年度	R6年度
利用形態別	散策等	134	76	50	4%	5%	3%
	スポーツ	77	29	18	12%	11%	23%
	水遊び	11	6	3	31%	23%	20%
	釣り	31	13	21	53%	61%	54%
	合計	253	124	92			



ロードレース大会（小丸川下流部）
（写真：高鍋町提供）



環境学習（小丸川下流部）


1. 流域及び河川の概要

(3)小丸川水系における環境整備の経緯・取組予定

【水環境】 小丸川水系の水質(BOD75%値)は環境基準値を満足している。流況は安定しているが、水環境の悪化は認められないため、引き続き状況について監視していく。

【自然再生】 過去に行われた河川整備(瀬替え)により形成された止水環境である河跡湖には、絶滅危惧種のオグラコウホネのほか、ガガブタ、ノタヌキモ等の水生植物や、オオミズスマシ、ヒメミズカマキリ等の水生昆虫類等の多様な動植物が生息・生育・繁殖しており、引き続き保全に取り組む。河川環境の整備においては、河川水辺の国勢調査などの継続的なモニタリング調査による環境の変化の把握に努めるとともに、それらの変化に応じて順応的な管理にも取り組む。

【水辺整備】 地域の賑わいづくりに資する水辺空間の整備に向けて、地域住民や関係機関と連携・調整しニーズの把握を行う。
「小丸川下流地区かわまちづくり計画」(R8～R16予定)に基づき、治水上及び地域振興等に資する河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備を行う。

整備メニュー	～R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17～
水環境	監視・モニタリング										
自然再生	多様な動植物が生息・生育・繁殖する河跡湖の保全、継続的なモニタリング調査による環境の変化を把握し、順応的な管理に取り組む										
水辺整備	地域住民や関係機関との連携・調整によるニーズの把握										
		小丸川下流地区かわまちづくり									
											

※事業のスケジュールは変更となる可能性がある

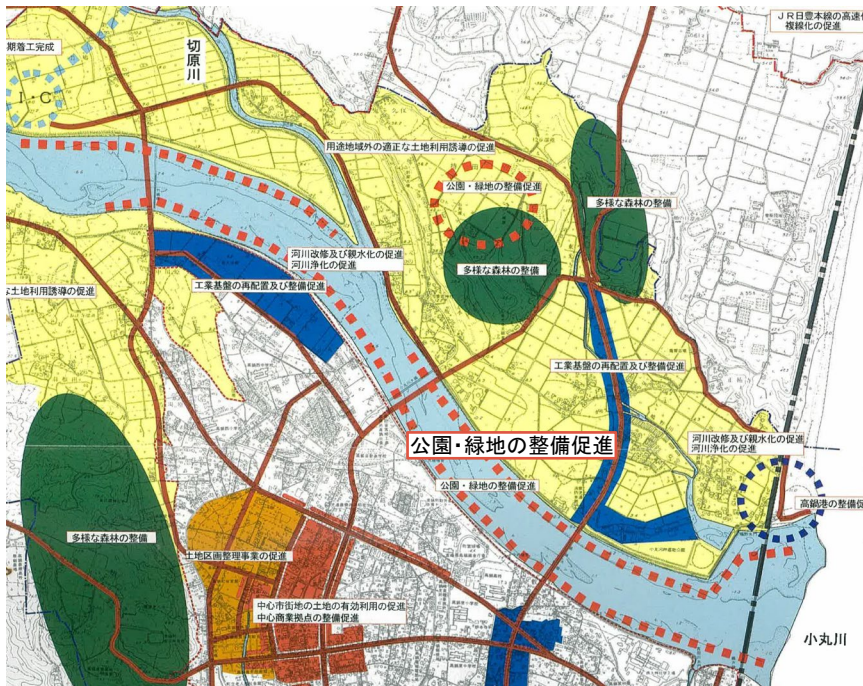
2. 課題の把握・原因の分析

(1) 高鍋町が目指すまちづくり

・高鍋町では、小丸川河川敷において、水辺空間と一体となった潤いのあるレクリエーション空間の形成を図る(①)他に、市民の健康づくりのためのまちづくりに取り組む(②)ことや環境保全活動を充実させる(②)こと、スポーツやイベントの開催を通して交流人口の増加を図る(③)ことを目指した計画を策定しており、小丸川の河川空間を、憩いの場やスポーツ交流の場、環境学習の場やイベント開催の場とし、交流人口の増加や地域の活性化を目指している。

① 高鍋町都市計画マスタープラン(平成11年9月策定)

小丸川河川敷は、水辺空間と一体となった潤いのあるレクリエーション空間の形成を図ることが示されている。また、小丸川等の豊かな自然環境と歴史的資源を保全するとともに、観光資源としての活用及び住民の憩いの場や安らぎの場の形成を図ることとしている。



② 第6次高鍋町総合計画 後期基本計画(令和3年6月策定)

持続可能なまちづくりや地域の活性化に向けた取り組みをSDGsの理念に沿って推進するとともに、「スマートウエルネスシティ」を重点プロジェクトに位置づけ、健康づくりの基本となる「歩く」ことに主眼を置き、そこに住んでいるだけで「歩いてしまう、歩き続けてしまう」まちづくりに取り組むことが示されている。

また、「環境保全活動の充実」を目標に掲げ、達成に向けて、保育園・幼稚園・小中学校における環境学習の推進や、環境に関する出前講座を充実させ環境学習の機会を提供していく旨が示されている。

※ウエルネス: 個々人が健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むことのできる

③ 第3期高鍋町まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和7年3月策定)

スポーツ大会やイベントの開催、観光の振興等地域の特性を生かしながら、高鍋町に訪れる人(交流人口)の増加を図ることができる取組を強化することが示されている。

重要業績評価指標(KPI)

交流人口の増加が見込める
スポーツ大会、イベント等の
開催件数

現状
(令和5年度)

33件

目標値
(令和11年度)

39件

2. 課題の把握・原因の分析

(2)課題の把握・原因の分析

地域の課題	原因の分析
<ul style="list-style-type: none"> ・小丸川下流地区では、堤防道路は通勤・通学のほか、ウォーキングやランニングの利用者も多く、沿川の景観向上や休憩場所の整備が望まれている。 ・高鍋町都市計画マスタープランでは、まちづくり方針として、小丸河川敷に町民の憩いの場やスポーツ交流の場の形成を図ることとしているが、実現できていない。 ・高鍋町では、ボートやカヌー・SUP教室、自然観察等の水面利用のニーズがあるが、利用がされていない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高水敷の樹林化により、利便性が損なわれている。……① ・高水敷は不陸があるとともに草木が繁茂しており、憩いの場やスポーツ交流の場としての利便性が低い。……② ・小丸川下流地区には小丸河川敷広場や河跡湖等の地域資源が存在するが、駐車場や安全にアクセスできる通路が整備されていない。……③ ・水際には大型ブロックが設置されており水辺に安全に近づけない。また、カヌーやSUP、自然観察等で利用できる親水施設がない。……④



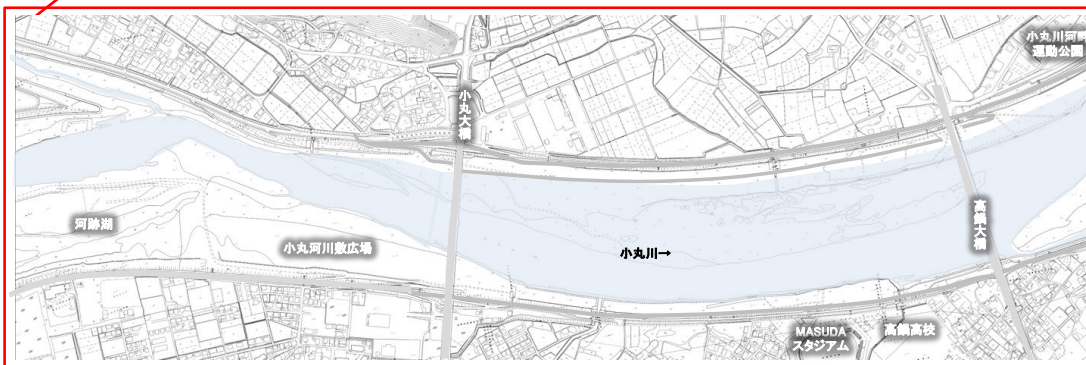
① 高水敷の樹林化がすすみ、利便性が損なわれている。



② 高水敷は不陸があり草木が繁茂している。



③ 小丸河川敷広場は通路や駐車場が未整備である。



③ 河跡湖まで安全にアクセスできる通路が確保されていない。



④ 大型ブロックが設置され、水際に安全に近づくための親水施設がない。

3. 政策目標、具体的な達成目標の設定

(1)政策目標

高鍋町が掲げる市民の健康づくりのためのまちづくりの推進や、スポーツやイベントを介した交流人口の増加に寄与できるよう、豊かな自然環境や地域の風土・文化を踏まえ、魅力的で活力ある小丸川を目指し、河川空間とまち空間が融合した賑わいのある良好な水辺空間の形成を図る。

(2)具体的な達成目標

小丸川下流地区かわまちづくり計画における達成目標を踏まえ、小丸川下流地区かわまちづくり計画に基づく環境整備事業(以下①～②)が高鍋町の地域活性化や賑わいのあるまちづくりに寄与することを目指す。

①スポーツ・イベント等で活用できるような、水辺交流ゾーンの創出

②小丸川が有する自然環境を活かし、河川敷広場と一体的な整備により利用者也環境に親しむことができるような、環境学習ゾーンの創出

＜参考＞小丸川下流かわまちづくり計画における達成目標[「第6次高鍋町総合計画 後期基本計画」等を踏まえ、小丸川下流地区かわまちづくり推進部会で決定]

○かわまちづくり拠点の利用者数:年間約63,000人

・平成31年度利用実態調査のかわまち整備拠点の年間推計利用者数59,000人より、4,000人(活用件数8件×500人)の増加を目指す。

○持続的な利活用・維持管理(ボランティア等との協働による維持管理回数):8回/年

・持続的な利活用・維持管理を想定し、今後、「ボランティア等との協働による環境保全活動・維持管理の回数」目標値を令和12年度までに、8回/年に設定する。

○都市・地域再生等利用区域における活用件数:8件/年

・小丸河川敷広場周辺や高鍋大橋上流周辺(右岸)を都市・地域再生等利用区域に指定し、活用件数の目標値を令和12年度までに、8件/年(2箇所×4回(春夏秋冬)/年)に設定する。

(3)期待される効果

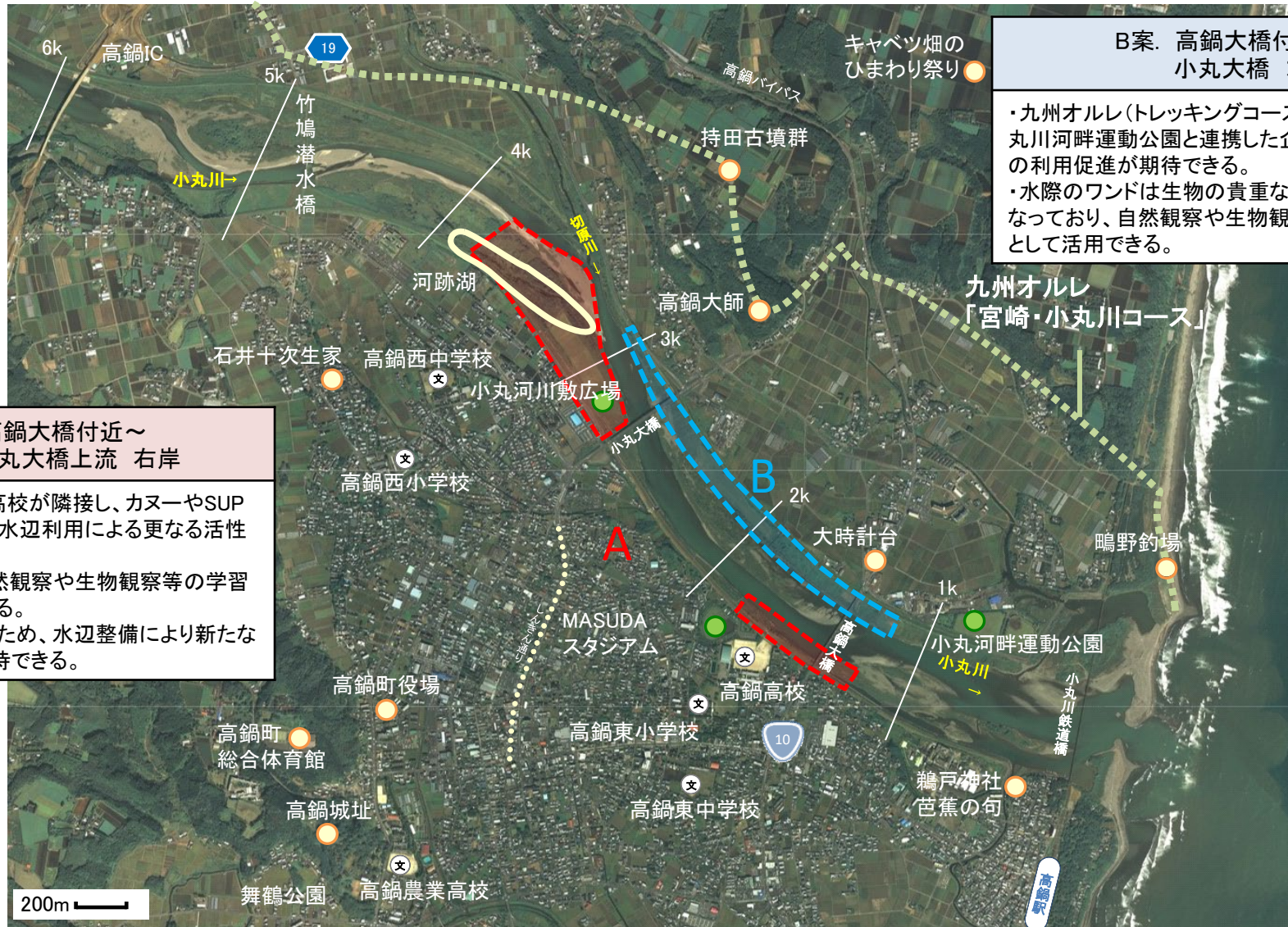
・階段や坂路、管理用通路を整備(改良)して安全な水際までのアクセスを確保することと併せて、親水護岸を整備することで、ボートやカヌー等の水辺利用の親水性、安全性、利便性を高め、賑わいある河川空間が創出される。また、高水敷を拡張し、大規模なイベント、グラウンドゴルフ等のスポーツや営業活動の場を創出することで、近隣自治体を含めた地域活性化に寄与する。

・かつての流路の名残である「河跡湖」は、川本来の自然が残されていることが多く、小丸川に残る河跡湖も多くの生き物の生息環境となっている。河跡湖まで管理用通路を整備することで、環境学習等の利用を促進し、貴重な自然環境の次世代への継承に寄与する。

・管理用通路、高水敷を整備することで、小丸川沿いのウォーキングやランニング、ボートやカヌー等水辺利用時において利便性が向上し、利用促進に寄与する。

4. 複数案の提示、比較、評価

- ・小丸川下流地区での環境整備の検討にあたり、当該エリアの課題解消のための対策案として複数案を抽出し、比較した。
- ・複数案は、整備後の箇所において、水辺利用や環境学習等での活用を考慮し、小丸川の右岸(A案)と左岸(B案)を比較対象として抽出した。



A案. 高鍋大橋付近～
小丸大橋上流 右岸

- ・ボート部を有する高校が隣接し、カヌーやSUPのニーズがある等、水辺利用による更なる活性化が期待できる。
- ・河跡湖があり、自然観察や生物観察等の学習の場として活用できる。
- ・広い高水敷があるため、水辺整備により新たな賑わいの創出が期待できる。

B案. 高鍋大橋付近～
小丸大橋 左岸

- ・九州オルレ(トレッキングコース)や隣接した小丸川河畔運動公園と連携した企画により、水辺の利用促進が期待できる。
- ・水際のワンドは生物の貴重な生育・生息場となっており、自然観察や生物観察等の学習の場として活用できる。

4. 複数案の提示、比較、評価

(1)整備案の提示

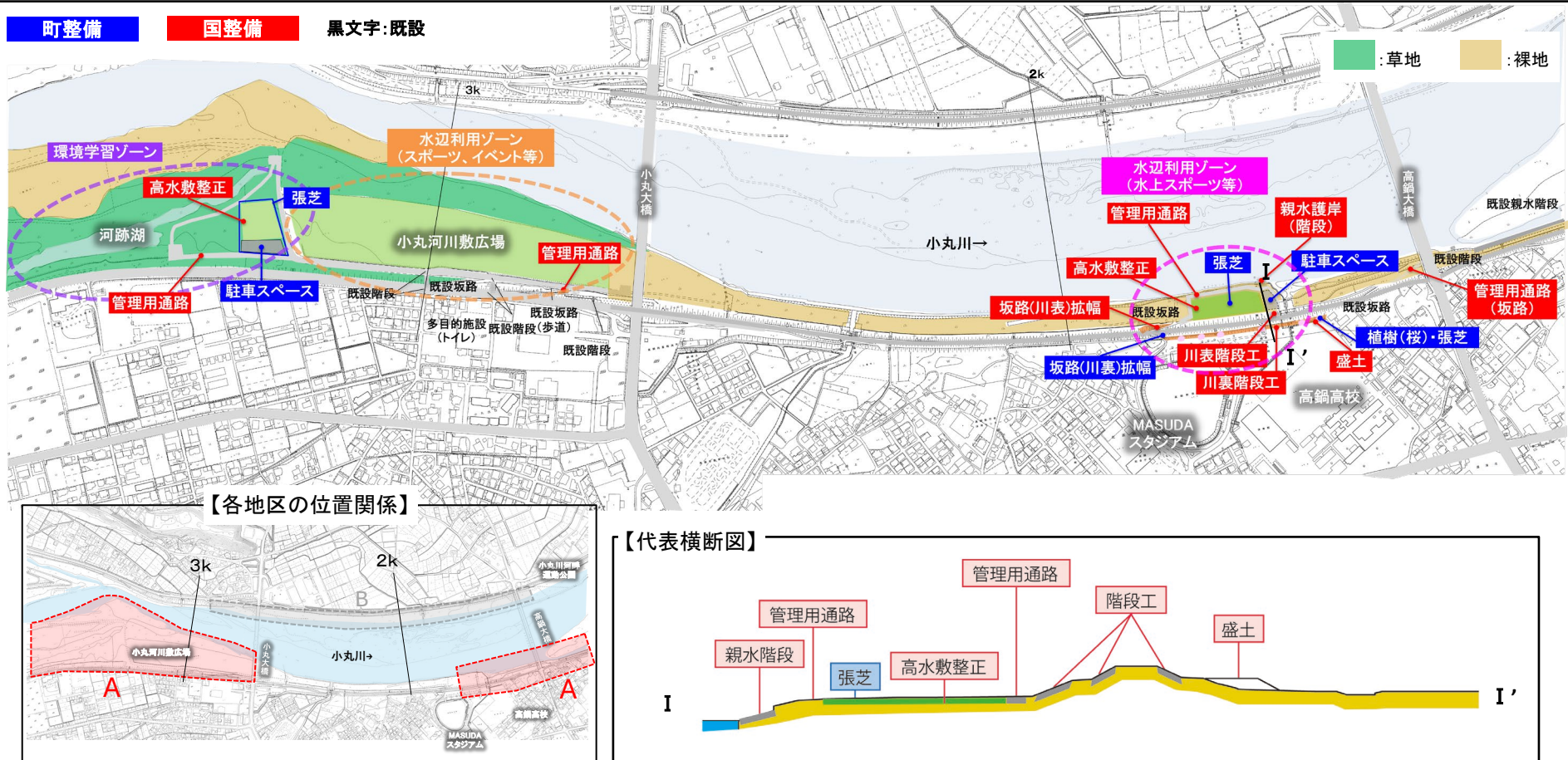
A案. 高鍋大橋付近～小丸大橋上流 右岸

【整備テーマ】小丸川の自然環境・既存施設(公園やスポーツ施設)が融合した、賑わいを創出する水辺空間づくり

地区の概要

高鍋大橋～小丸大橋上流 右岸にはポート部を有する高鍋高校が位置し、またスポーツが非常に盛んな小丸河川敷広場やMASUDAスタジアム、環境学習で活用できる河跡湖などの地域資源もある。これらを拠点化し、親水機能を高めることで新たな賑わい創出が見込まれる。

整備の概要



4. 複数案の提示、比較、評価

(1)整備案の提示

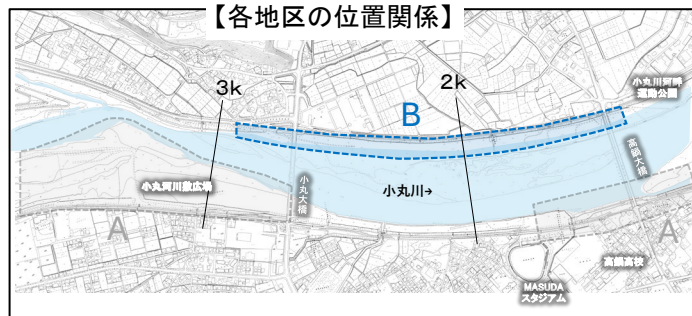
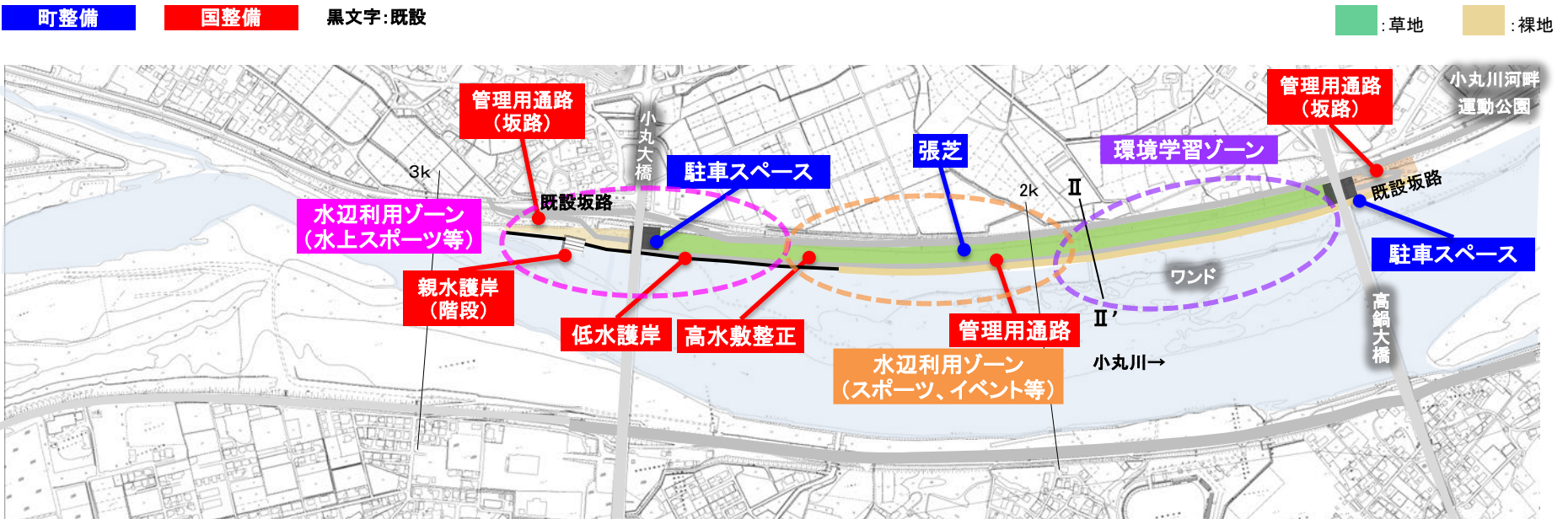
B案. 高鍋大橋付近～小丸大橋 左岸

【整備テーマ】小丸川の自然環境を活かした、憩いを創出する水辺空間づくり

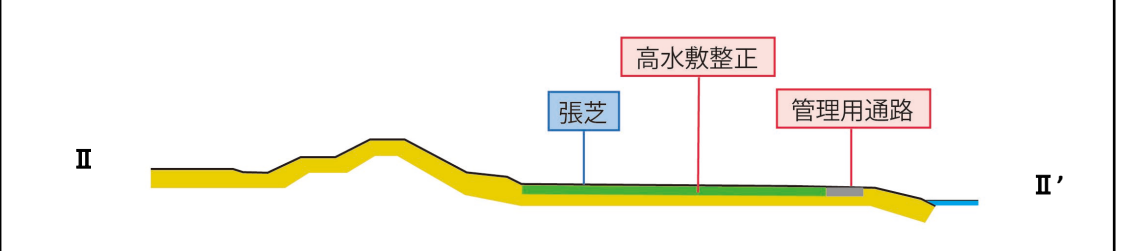
地区の概要

高鍋大橋～小丸大橋左岸の水際には、生物の貴重な生育・生息場となっているワンドが存在し、自然観察や生物観察等の学習の場として活用できる。自然資源を活かし、親水機能を高めることで憩いの空間の創出が見込まれる。

整備の概要



【代表横断図】



4. 複数案の提示、比較、評価

(2)整備案の比較、評価

比較案		A案. 高鍋大橋付近～小丸大橋上流 右岸 (1k400付近～2k100付近及び2k600付近～4k000付近)		B案. 高鍋大橋付近～小丸大橋 左岸 (1k400付近～2k800付近)	
対象地区の特性		・後背地には高校や町営球場、住宅街が広がっている。 ・堤防道路や高水敷はウォーキングやランニング、地域住民のスポーツ活動に利用されている。		・水際には豊かな自然環境が見られる。 ・隣接する小丸川河畔運動公園は野球・ラグビーなどのスポーツ活動に利用されている。	
整備内容		管理用通路、高水敷整正、坂路拡幅、親水護岸(階段)、川表階段工、川裏階段工、盛土、駐車スペース、張芝、坂路(川裏)拡幅、植樹		高水敷整正、管理用通路、低水護岸、親水護岸(階段)、駐車スペース、張芝	
評価軸	実現性	・既存の高水敷、管理用通路を活用する事で効率的・効果的に水面利用の安全性・利便性の向上を図ることができる。 ・高校が隣接し、整備後は部活動の練習(ボート部)での利用が期待できる。 ・ウォーキングやスポーツ等、近隣住民に日常的に利用されており、整備後の利活用のさらなる活発化が期待される。 ・エリア内には、絶滅危惧種のオグラコウホネ等をはじめとする重要な植物が多く生息する河跡湖が存在しており、アクセス路を整備することで、環境学習や生物観察の場としての利用が期待できる。	○	・既存の高水敷、坂路を活用する事で効率的・効果的に水面利用の安全性・利便性の向上を図ることができる。 ・小丸川河畔公園が隣接し、整備後は陸域と水域の両方を使ったスポーツ活動が期待できる。 ・エリア内に環境学習や生物観察の場としての利用が期待できるワンドは存在するが、ワンド周辺の地形の改変を最小限にとどめる必要があるため、アクセス路などの整備が困難であり、整備後はA案と比べて利便性が劣る。	△
	アクセス性	・市街部に隣接しており、アクセス性に優れている。	○	・市街部からアクセスするためには、小丸川を横断する高鍋大橋を渡る必要があり、A案に比べてアクセス性が劣る。	△
	観光機能	・川表階段を拡幅し、利用しやすくすることで地元住民や観光客の河川空間への誘引が期待できる。 ・河跡湖や小丸河川敷広場を活用した環境学習・水辺アクティビティ、大規模なイベント、営業活動による新たな魅力創出が期待できる。	○	・坂路や通路を整備し、利用しやすくすることで、トレッキングコースである九州オルレの観光客の河川空間への誘引が期待できる。 ・ワンドを活用した環境学習、整備後の親水護岸を活用した水辺アクティビティによる新たな魅力創出が期待できる。	○
	経済性 (コスト)	・最も安価である。 完成までに要する費用 約4.7億円 維持管理に要する費用 約4.8億円(50年間)	○	・A案に比べコスト面で劣る。 完成までに要する費用 約5.5億円 維持管理に要する費用 約5.0億円(50年間)	△
	維持管理の 持続性	・高鍋自然愛好会、市民ボランティアと連携した維持管理が期待できる。	○	・高鍋自然愛好会、市民ボランティアと連携した維持管理が期待できる。	○
	地域社会への 影響	・施工中の工事車両の動線は確保されており、工事による周辺地域 への影響が想定されるものの、影響範囲は限定的である。	○	・施工中の工事車両の動線は確保されており、工事による周辺地域 への影響が想定されるものの、影響範囲は限定的である。	○
	環境・景観への 影響	・重要種であるシルビアシジミ(H30年)が堤防法面で確認されているが、食草となるミヤコグサの残存と幼虫の保護に配慮し、段階的に草刈りを行うことで、環境への影響を低減できる。 ・周辺の自然環境と調和するため景観への影響は少ない。	○	・ワンド部ではミナミメダカ(H28年)やコガタノゲンゴロウ(H24)等が確認されており、魚類、コウチュウ類等の重要な生育・生息場となっているが、水際部の改変を最小限にとどめることで、環境への影響を低減できる。 ・周辺の自然環境と調和するため景観への影響は少ない。	○
総合評価		○		△	

5. 対応方針(原案)

1)宮崎県の意見

小丸川総合水系環境整備事業の計画段階評価につきましては、実現性及びアクセス性、経済性で優れる「A案、高鍋大橋付近から小丸大橋上流右岸」の整備を行う方針で事業を実施することが妥当であると考えます。

2)対応方針(原案)

比較した2案のうち、かわとまちが融合した環境整備にあたっては、実現性、アクセス性、経済性等のそれぞれの面から「A案. 高鍋大橋付近～小丸大橋上流 右岸」の事業内容が妥当と考えられます。

令和7年度
第2回小丸川学識者懇談会

小丸川下流地区かわまちづくり計画について

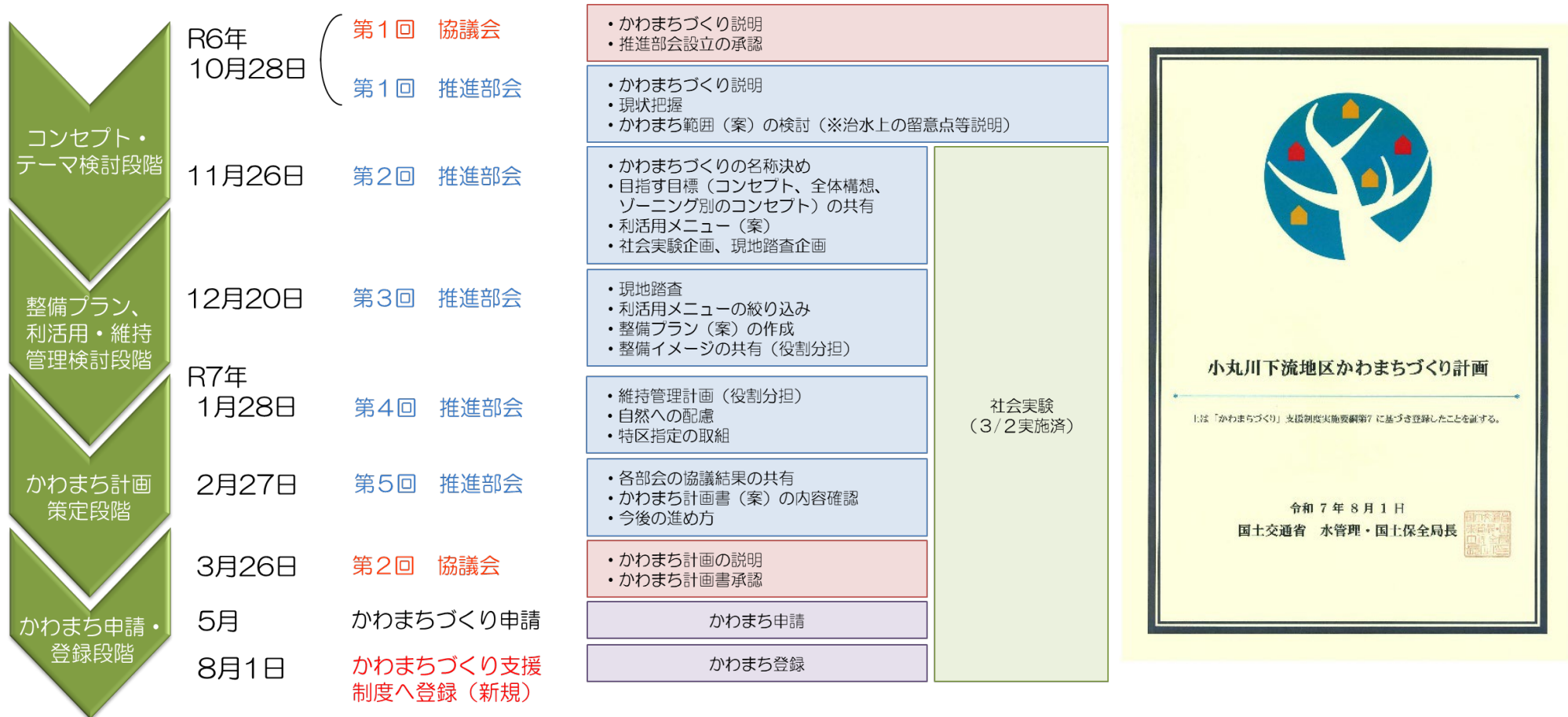
令和7年10月31日

国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所

(参考)小丸川下流地区かわまちづくり計画

小丸川下流地区かわまちづくりの経緯

- 令和5年11月、小丸川直轄管理区間の沿川に位置する高鍋町、木城町の町長に「かわまちづくり支援制度」を紹介。
その後、高鍋町担当部署とかわまち登録に向けた意見交換を開始。
- 令和6年10月に「小丸川下流地区かわまちづくり協議会」を設立。地区代表者と複数回協議・検討を重ね、令和7年3月にかわまちづくり計画書について、協議会での承認を得た。
- 令和7年5月にかわまちづくり支援制度への申請を行い、**令和7年8月1日に登録がなされた。**



(参考)小丸川下流地区かわまちづくり計画

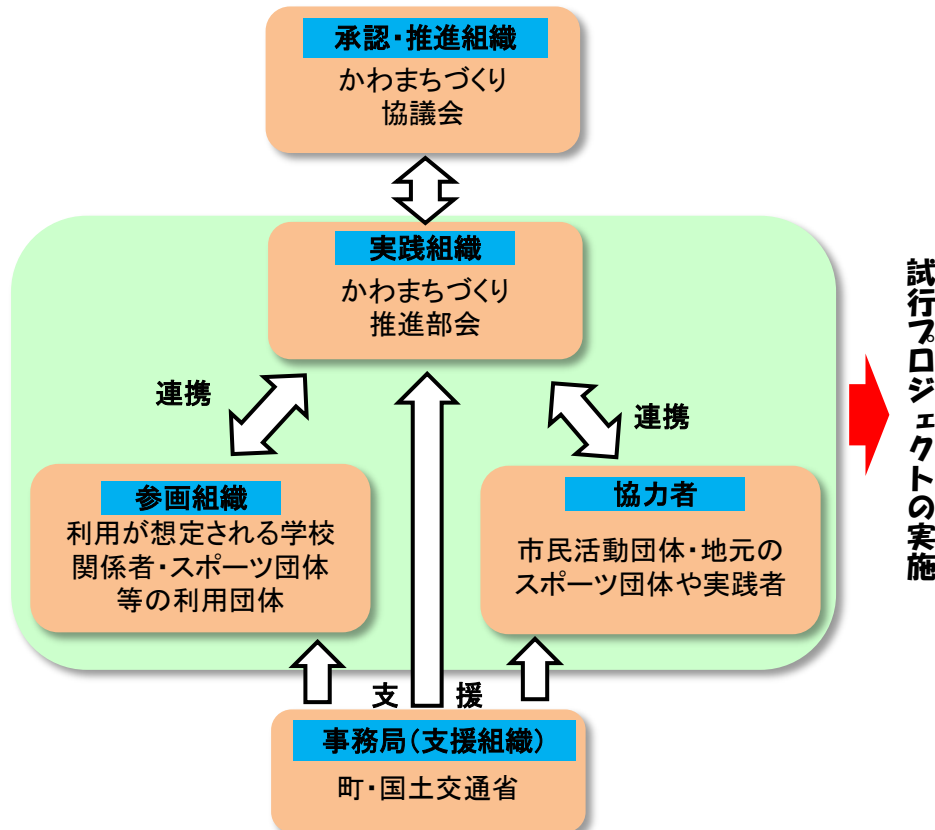
小丸川下流地区かわまちづくりの推進体制

■「協議会」

承認組織として、小丸川下流地区かわまちづくり計画を策定するとともに、小丸川を軸とした地域の活性化や地域交流の促進、治水安全度の向上を目的として整備内容、利活用方法の承認・推進を実施。

■「推進部会」

実践組織として小丸川下流地区かわまちづくり計画の整備プランや、利活用及び維持管理の具体化、施行等について、実際に利用が想定される団体や地元の活動団体などの参画組織や協力者と連携しながら、より実践的な整備内容や利活用の推進の協議・検討を実施。



小丸川下流地区かわまちづくり協議会 委員名簿

団 体 名	役職	備考
宮崎大学	教授	委員長
小丸川漁業協同組合	組合長	
宮崎県立高鍋高等学校	校長	
高鍋町観光協会	理事長	
高鍋商工会議所	会頭	
NPO法人高鍋スポーツクラブ	会長	
高鍋町	町長	
国土交通省宮崎河川国道事務所	所長	

小丸川下流地区かわまちづくり推進部会 委員名簿

団 体 名	役職	備考
小丸川漁業協同組合	代表組合員	
宮崎県立高鍋高等学校	ボート部顧問	
高鍋町観光協会	代表者	
高鍋商工会議所	専務理事	
小丸出口公民館	館長	
大池久保公民館	館長	
高鍋自然愛好会	会長	
NPO法人高鍋スポーツクラブ	マネージャー	
児湯・高鍋ライフセービングスポーツクラブ	会長	
高鍋町 地域政策課	課長補佐	
高鍋町 農業政策課	課長補佐	
高鍋町教育委員会 社会教育課	課長補佐	
高鍋町 建設管理課	課長	
宮崎河川国道事務所	副所長	